

## 第4章 参加と協働による環境保全への取り組み

「環境首都とくしま」の実現を目指し、地球温暖化対策をはじめとした各種環境施策や環境活動を一元的にバックアップするとともに、環境学習や環境教育を総合的にサポートするための「産・学・民・官」の連携・協働による本格的な環境活動拠点として、平成22年4月に「環境首都とくしま創造センター（エコみらいとくしま）」を開設し、このセンターを中心に、県民総ぐるみによる環境活動や環境学習の推進に取り組んでいます。

環境首都とくしま創造センター（エコみらいとくしま）の概要

開設時期	平成22年4月1日
開設場所	徳島市東沖洲一丁目23番地
面積・施設等機能	1階 事務室 75.75m <sup>2</sup> 、会議室 16.87m <sup>2</sup> 2階 会議室 45.9m <sup>2</sup> 事務所、会議室、展示スペース、周辺は環境学習のフィールド
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島県と特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センターが協働で運営</li> <li>・「環境活動実践センター機能」「環境学習サポートセンター機能」、「地球温暖化防止活動推進センター機能」の3つの機能を一箇所に集約して、環境学習サービスのワンストップ化の実現</li> <li>・子どもから高齢者まで、すべての世代が、気軽に環境について学べることや、あらゆる方々が、環境を合い言葉に、「集い・語らい・共に行動する」ことができる場を目指す。</li> </ul>
環境活動実践支援機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産・学・民・官が協働で実施する様々な環境活動・環境施策の企画から実践までを幅広く支援。</li> <li>・社会実験や実証実験など実践に結びつく調査・研究、環境NPO等の支援・交流</li> </ul>
環境学習サポートセンター機能	<p>学校や地域における環境学習・教育を総合的・体系的に推進するとともに、地域環境力を高めるための人づくりを支援するなど、環境学習・教育を人材・知識面等から総合的にサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とくしま環境学講座等の各種環境関係講座の開催</li> <li>・環境関係の図書、DVDソフト、資料、展示パネルの貸出</li> <li>・地域や職場、学校での環境に関する講座、セミナー、イベント等に専門的知識を備えた環境アドバイザーの派遣</li> <li>・インターネット上のウェブサイト「とくしま環境首都学校」において、県内で実施される各種環境関係イベント、講座等を紹介</li> </ul>
地球温暖化防止活動推進センター機能	<p>本県における地球温暖化防止に関する「啓発・広報活動」、「調査・分析活動」「情報提供」「民間団体の活動支援」等を総合的に支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化防止活動推進員等の活動支援</li> <li>・家庭部門や民生業務部門での温室効果ガス削減活動を支援</li> <li>・「クリーンエネルギーの導入」「低炭素交通システムの推進」「カーボンオフセットの推進」等の活動支援</li> </ul> <p>※地球温暖化対策推進法に基づき、地球温暖化対策に関する普及啓発等の推進主体として「特定非営利活動法人 環境首都とくしま創造センター」を地域・地球温暖化防止活動推進センターに指定。</p>

### 第1節 環境教育・環境学習の充実

#### 1 環境教育・環境学習の推進

環境保全に対する県民意識を高め、環境保全活動への参加を促していくためには、長期的な視野に立った環境教育や環境学習の推進が必要です。本県では、県民・事業者・行政が連携・協働して環境学習を総合的・体系的に進めるため、「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」を平成17年2月に策定しました。

この方針に基づき、平成22年度においては次の施策を実施しました。

##### (1) 環境学習実践モデル事業

「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」の方針を踏まえ、平成19年3月に作成された「とくしま環境学習プログラム」を活用したモデル的な取り組みである次の事業に対し、支援を行いました。

県内の8団体が「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」で示された本県で重点的に取り組むべき分野である「ごみ」「生きもの」「水環境」「太陽（エネルギー・地球温暖化）」をテーマに「とくしま環境学習プログラム」を活用した環境学習を行い、「とくしま環境学習フォーラム」（平成23年2月開催）でその成果を発表しました。

(2) 「学校版環境ISO」認証取得の推進

「学校版環境ISO」とは、ISO14001などの環境規格を参考に、小・中・高・特別支援学校の児童生徒、教職員が自ら目標を立て、成果をチェックする方法で、学校全体でごみの減量やリサイクル、省エネルギーなどに継続的に取り組む活動を推進しています。

実施校では、児童生徒、教職員がそれぞれの実態に応じた目標を考え、数値的な指標を設定するなど特色ある活動を展開します。認定されると認定証（3年間有効）が交付されます。

平成22年度末には、小・中学校、高等学校、特別支援学校を含めて212校が認定を受けて活動をしています。

表2-4-1 平成22年度「学校版環境ISO」認定校

校 種	市 町 村 名	学 校 名
小 学 校 (38校)	徳 島 市	新 町 小 学 校
		佐 古 小 学 校
		富 田 小 学 校
		福 島 小 学 校
		城 東 小 学 校
		八 万 小 学 校
		大 松 小 学 校
		宮 井 小 学 校
		渋 野 小 学 校
		上 八 万 小 学 校
		一 宮 小 学 校
		入 田 小 学 校
		国 府 小 学 校
	鳴 門 市	黒 崎 小 学 校
		堀 江 南 小 学 校
		板 東 小 学 校
	小 松 島 市	千 代 小 学 校
	阿 南 市	大 野 小 学 校
		橘 小 学 校
		伊 島 小 学 校
		新 野 東 小 学 校
	吉 野 川 市	上 浦 小 学 校
	阿 波 市	一 条 小 学 校
	美 馬 市	重 清 東 小 学 校
		穴 吹 小 学 校
	三 好 市	西 山 小 学 校
		池 田 小 学 校
		白 地 小 学 校
		佐 野 小 学 校
		上 名 小 学 校
		辻 小 学 校
		※ 河 内 小 学 校 (休 校)
	石 井 町	浦 庄 小 学 校
	美 波 町	日 和 佐 小 学 校
	海 陽 町	宍 喰 小 学 校
	上 板 町	東 光 小 学 校
	東 み よ し 町	加 茂 小 学 校
		※ 絵 堂 小 学 校 (休 校)

校 種	市 町 村 名	学 校 名
中 学 校 (18校)	徳 島 市	徳 島 中 学 校
		城 西 中 学 校
		津 田 中 学 校
		加 茂 名 中 学 校
		八 万 中 学 校
		不 動 中 学 校
		入 田 中 学 校
	鳴 門 市	北 灘 中 学 校
	阿 南 市	新 野 中 学 校
		那 賀 川 中 学 校
	阿 波 市	吉 野 中 学 校
	美 馬 市	木 屋 平 中 学 校
	三 好 市	池 田 中 学 校
		山 城 中 学 校
		井 川 中 学 校
石 井 町	高 浦 中 学 校	
上 板 町	上 板 中 学 校	
県 立	県 立 富 岡 東 中 学 校	
高等学校・特別支援学校 (3校)	県 立	勝 浦 高 等 学 校
		新 野 高 等 学 校
		池 田 支 援 学 校 美 馬 分 校

※河内小学校と絵堂小学校は、平成22年度末で休校となりました。

### (3) エコリーダー養成講座

学校版環境ISOの認証取得を目指す学校の環境教育担当の教員などに対して、第1回目は「地球環境問題に対する社会制度と徳島県の取り組み」のテーマで環境教育の目的・学校版環境ISO・とくしま環境学習プログラムについて講話を行いました。第2回目は「楽しく考えるエコみらい」をテーマとして講話を行いました。

### (4) 環境教育講座の開催

環境教育の充実に向けて、教員の指導力の向上を図るため、県教育委員会では平成5年度から、環境教育講座を開催し、実践事例の発表や環境教育の内容についての研修などを実施しています。

平成22年度は、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員を対象に、徳島県立総合教育センターにおいて「環境学習プログラムを取り入れた環境教育」についての研修を行いました。

### (5) 環境首都あどぶと・エコスクール

互いに連携・協働しながら主体的に行動する人材の育成のため、道路や河川で行われているアドプト（養子縁組）方式を学校の環境学習活動に適用し、「地域の人づくりを地域の企業等が支える」という考えの下、事業者・民間団体が「里親」となり、「養子」である学校の環境学習活動を支援する制度「環境首都 あどぶと・エコスクール」を平成19年度に創設しました。平成22年度は中学校1校と地域の事業者3社とが養子縁組の協定を結び事業者からの人材派遣や教材費等の支援により、地域に根ざした環境学習を効果的に実施することができました。

### (6) こどもエコクラブ事業

環境省が進める「こどもエコクラブ事業」は小中学生なら誰でも参加できる環境活動です。参加した子どもたちは、自然観察や調査、リサイクル活動など、地域の中で身近にできる環境活動に自由に取り組みます。平成22年度には県内で30クラブ1,664人が組織されて、各地域で活動を展開しました。

表2-4-2 平成22年度 こどもエコクラブ登録数

市町村名	クラブ数	メンバー人数	サポーター人数
徳島市	18	955	136
阿南市	4	275	93
阿波市	2	220	28
三好市	1	14	2
牟岐町	1	36	5
美波町	1	1	1
松茂町	2	58	8
板野町	1	0	0
合計	30	1,664	283

※「こどもエコクラブ」は、2人以上の仲間（メンバー）と、活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成されます。サポーターは、子どもたちの自主的な活動をあたたかくサポートする高校生以上の方で、高校生はメンバーとしても、サポーターとしても登録することができます。

(7) 佐那河内いきものふれあいの里の自然環境学習

佐那河内いきものふれあいの里は、指定管理者である佐那河内村が3名の自然観察指導員による自然環境学習を実施しています。その内容としては、野鳥の観察会、低山ハイキング、そばづくり等の体験、希少動植物の観察など様々なメニューがあります。また、小中学校や民間団体などに対する環境学習も行っております。

表2-4-3 自然観察会等の実施状況

学習内容	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
自然観察会	63	976	65	1,044	47	891
団体等観察会	29	405	26	783	26	868
計	92	1,381	91	1,827	73	1,759

(8) 環境アドバイザーの派遣

環境に関する専門家を環境アドバイザーとして任命し、県民や事業者の皆さんが自主的に実施する講演会や学習会、地域活動などに派遣しています。平成22年度には35名の方を環境アドバイザーとして任命し、合計45回派遣しました。（表2-4-4）

表2-4-4 平成22年度徳島県環境アドバイザー派遣状況

年月日	派遣場所	内 容	参加人数
平成22年4月17日	阿波市役所	地域の環境ボランティアについて	50
平成22年5月29日	海南文化館	環境問題について	52
平成22年7月6日	徳島市青少年交流プラザ	干潟の生物について	108
平成22年7月7日	徳島市青少年交流プラザ	干潟の生物について	108
平成22年6月5日	あすたむらんど	緑のカーテン	48
平成22年6月14日	大鳴門橋記念館	地域環境及び地域活性化について	14
平成22年6月16日	藍住町商工会館	中小企業における環境経営	12
平成22年6月23日	あすたむらんど	職場におけるエコな取り組みについて	65
平成22年7月25日	吉野川河口住吉干潟	干潟で遊ぼう	25
平成22年6月7日	東王子神社周辺	自然観察、生き物さがし	100
平成22年8月5日	ふれあいセンター立江前河川敷	カニの観察会	62
平成22年7月1日	藍住町みどりの広場周辺	体験型ふるさとの川環境観察学習会	110
平成22年8月26日	徳島市吉野川河口干潟	干潟の観察、川の環境美化について	32
平成22年8月26日	月見ヶ丘海浜公園	実践を交えた3Rについて	7
平成22年9月13日	さくら診療所	食卓からみる水環境	15
平成22年9月15日	小松島市総合福祉センター	家庭でできる3R活動と風呂敷活用術	30
平成22年9月9日	藍住町みどりの広場周辺	野鳥・歴史環境・水中生物・川調べ観察会	110
平成22年10月26日	神山町上分公民館	水環境について	45
平成22年10月26日	三島中学校体育館	自然環境や生き物について	111
平成22年9月2日午前	羽ノ浦中学校	室内でできるネイチャーゲームなどの体験型プログラム	130
平成22年9月2日午後	羽ノ浦中学校	室内でできるネイチャーゲームなどの体験型プログラム	130
平成22年9月29日	羽ノ浦中学校	室内でできるネイチャーゲームなどの体験型プログラム	130
平成22年9月23日	鴨島公民館	レジ袋削減に向けた講演	200
平成22年10月18日	穴吹高校	ネイチャーゲーム	27
平成22年10月1日	総合教育センター	環境エネルギー教育推進事業連絡協議会等	70
平成22年10月4日	鴨島第一中学校	レジ袋削減に向けた講演	410
平成22年10月15日	黒崎小学校	ごみ問題について考えよう	15
平成22年11月28日	月見ヶ丘海浜公園	新聞紙や広告を使ったエコバッグづくり	17
平成22年11月21日	阿南市富岡公民館	緑のカーテンの効果について	13
平成22年11月24日	城西中学校	水環境について	257
平成22年11月11日	みどりの広場	野鳥・歴史環境・水中生物・川調べ観察会	96
平成22年11月19日	水辺の学校	植物観察会	30
平成22年11月19日	徳島中学校	水環境について	177
平成22年11月30日	国府中学校	地球温暖化について	170
平成23年1月14日	徳島中学校	水環境について	171
平成23年1月22日	県青少年センター	暮らしの中から考える生物多様性	24
平成23年2月21日	飯尾敷地小学校	フードマイレージについて	38
平成23年2月8日	西部県民局（美馬庁舎）	不法投棄の実態と美化活動について	15
平成23年2月18日	西部県民局（三好庁舎）	不法投棄の実態と美化活動について	25
平成23年1月18日	池田中学校	身近な環境問題と暮らしの関わりについて	121
平成23年1月25日	ふれあいセンター立江前の講演	紙芝居や絵本を利用した観察会	50
平成23年1月26日	城西中学校	ごみ問題について理解を深める	250
平成23年2月24日	四国電力橋湾発電所	消費生活と環境	30
平成23年3月10日	佐那河内村農業総合振興センター	消費生活やゴミ問題について	34
平成23年2月25日	県立総合教育センター	環境問題の現状について	83

### (9) ビオトープアドバイザーの派遣

ビオトープの専門家をビオトープアドバイザーとして任命し、市町村・事業者及び各種団体等が開催するビオトープの保全・創出に関する学習会や説明会等に派遣し、ビオトープへの取り組みについての基本的な考え方を指導し、また地域の合意形成や具体的な企画立案等を効率的に進めています。平成22年度には15名の方をビオトープアドバイザーとして任命し、11回派遣しました。(派遣状況は第2部1章1節29ページ表2-1-5)

### (10) 環境学講座等の開講

環境首都とくしまの実現に向け、産学民官が連携・協働し、県民総ぐるみで環境活動に取り組むため、その主体となる、環境に関する高い意識と行動規範・実践力を持つ人材を養成するため、県民の皆様を対象とした「とくしま環境学講座」・「とくしま環境マイスター講座」を開講しました。(表2-4-5)

表2-4-5 平成22年度とくしま環境学講座開催状況

年月日	講座名	参加者数
平成22年6月24日～8月5日	とくしま環境学講座Ⅰ「エコでみらいを明るくするために」	15名
平成22年10月30日～12月11日	とくしま環境学講座Ⅱ「ゴミゼロ社会を目指して-地球環境を守るために私たちにできること」	5名
平成22年10月2日・6日	とくしま環境マイスター講座「地球温暖化防止」	7名

## 2 環境月間・3R推進月間

環境への負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境保全に係る意識の高揚を図るため、環境月間・3R推進月間に県民や事業者、各種民間団体の協力のもと、さまざまな行動を行いました。

### (1) モデル的リスクコミュニケーションの開催

事業者による自主的なリスクコミュニケーションを推進するため、平成22年6月4日に県内の事業所において、地域住民、事業者、行政が参加し、モデル的なリスクコミュニケーション(事業者と地域住民との意見交換会)が開催されました。会では、事業所見学、事業者による環境保全対策の説明の後、意見交換が行われました。

### (2) ごみゼロの日キャンペーンの実施

環境美化に対する意識を高めるため、5月30日の「ごみゼロの日」に、「ごみゼロの日キャンペーン」を実施しました。関係機関や団体、事業所、学校に清掃活動呼びかけ、環境美化意識の向上を図りました。

### (3) 3R推進セミナーの実施

循環型社会の形成を推進するため、平成22年9月23日に吉野川市内で吉野川市「レジ袋ゼロの日」社会実験プレ・イベントとして、「3R推進セミナー」を実施しました。環境カウンセラー大垣光治さんによる「地球のためにできること」と題した講演などを行いました。

## 3 瀬戸内海環境保全月間

瀬戸内海の環境保全思想の普及、意識の高揚を図るため沿岸府県市において昭和48年度から毎年6月を環境保全月間と定め、講習会の開催、広報用印刷物の作成配布等各種普及活動事業を実施しています。

本県における、平成22年度瀬戸内海環境保全月間(6月1日～6月30日)の実施状況は次のとおりです。

### (1) 啓発用ポスターの配布・掲示

瀬戸内海環境保全協作成の環境保全啓発用ポスターを各種団体、事業場等に配布・掲示しました。

### (2) 工場再点検

環境月間に合わせ、工場・事業場の立入検査を実施するとともに、瀬戸内海地域内の事業場、協定工場による排水処理施設の整備状況等について自主点検の実施を推進しました。

### (3) 海辺の教室

瀬戸内海環境保全協会、徳島県漁業協同組合連合会、鳴門市、鳴門町漁業協同組合の協力を得て、鳴門東小学校及び鳴門東幼稚園(鳴門市)の79名を対象に海辺の教室を開催しました。

#### 4 河川愛護思想の普及（水生生物による水質調査）

身近な河川の水質を知るとともに、河川の水質保全の必要性を認識してもらうこと及び水質環境の基礎的情報を得ることを目的として国土交通省では昭和59年度から、県では昭和60年度から、徳島市では昭和61年度から、小・中学生等一般市民の参加を得て水生生物による水質調査を実施しています。

平成22年度は、河川愛護月間（7月1日～7月31日）等において、国土交通省では県下の主要一級河川である那賀川や穴吹川で、県では県下の小・中学生等へ呼びかけ海部川等20河川で調査が行われました。

表2-4-6 水生生物調査実施状況

区 分	年 度	河 川 数	地 点 数	参加団体数	参加人員
国 土 交 通 省	H13	3	6	28	587
	14	3	6	17	368
	15	3	6	17	306
	16	3	7	17	471
	17	3	4	11	304
	18	2	3	3	128
	19	3	8	10	223
	20	4	9	11	522
	21	2	2	2	115
	22	3	5	8	132
県	H13	38	128	69	1,716
	14	30	94	41	1,087
	15	27	73	32	935
	16	24	52	33	854
	17	19	39	30	895
	18	30	47	33	1,055
	19	28	48	30	664
	20	32	57	39	1,172
	21	25	44	30	827
	22	20	30	16	438

#### 5 今後の取り組みの方向性

「環境首都とくしま創造センター（エコみらいとくしま）」を中心に、平成17年12月に策定した「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」に基づき、環境学習プログラムの普及や環境講座の開設などにより、環境学習を総合的・体系的かつ効果的にすすめるとともに、各主体の連携・協働を推進します。

また、環境アドバイザーやビオトープアドバイザーの派遣などにより、地域における環境活動を支援します。

さらに、こどもエコクラブ事業などにより、実践的な環境学習活動を推進します。

併せて、県をはじめとした行政や、教育機関、環境団体、企業が実施する環境に関する各種講座や催しなどについて、一元的に情報を収集し、提供する仕組みづくりを行います。